

- 1 派遣期日 令和元年11月15日(金) 9:00～16:30
- 2 研修先 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会
- 3 会場名 国立オリンピック記念青少年総合センター
所在地：〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
<https://nyc.niye.go.jp/>

4 研修内容

(1) 東京都中学校英語教育研究会の取組

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
～新学習指導要領全面実施に向けて～

東京都中学校英語教育研究会では、「グローバル化に対応した英語教育の実践」を研究のテーマとして研究を進めている。東京方式少人数・習熟度別指導を実施し、研究授業やワークショップ等を通して、コミュニケーション能力を育成する指導法と評価について研究を進めている。

(2) 全体会

① 基調提案

- 組織の充実とその活性化を図る。
- 人材の発掘とその育成に努める。
- 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。
- 調査・研究の充実を図る。

② 記念講演

「Learning-centered (学習中心主義) な時代を迎えてー2020年度以降の課題ー」という演題で、青山学院大学大学院教授である木村松雄氏による記念講演が行われた。学習者がCan-doリストによって省察し、自己調整を図りながら、自律した学習者へと成長できるように、RPDCAサイクルを基調とする行動目標解決型のアクティブな活動が大切であるとしている。また、学習を促進するための授業には以下の5つの原理が必須であるとしている。

- 「課題」または「問題」：取り組むべき課題の設定
- 「活性化」：事前に学んだ関連知識や経験を呼び起こす
- 「例示」：観察できる例示を心がける
- 「応用」：新たな知識を応用する
- 「統合」：新しく学んだ知識を日々の生活に統合する

(3) 公開授業

- ① 発表校：品川区立荏原第六中学校 第9学年(第3学年) 1組
- ② 単元名：Program 4 Faithful Elephants SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 (開隆堂)
- ③ 年間指導計画

荏原第六中学校では、同じ素材を繰り返し、難易度を徐々に高めて学習する「ラウンド学習」を取り入れている。第1回目で、この学年で学習すべき文法項目を学び、教科書内容のRetelling活動を通して指導する。第2回目では、単元ごとに内容を復習し、論題を設定してやり取りをする指導をする。第3回目では、内容を復習しつつ、読み手に配慮したエッセイ・ライティングで表現できるように指導をする。

④指導形態の工夫

習熟の程度が異なる生徒を混在させた少人数・習熟度別クラスの編成をしている。生徒がそれぞれの良さを発揮して互いに学び合うことで学習意欲を高め、学習効果が向上することを狙いとしている。また、日常の生活班での活動を基本としている。ペア学習においては、横・縦・女子が前や後ろに移動するなど、どの相手とも組めるよう工夫している。

(4) 分科会

①研究主題

「ペーパーテスト」における評価の充実

②研究の内容

東京都中学校英語教育研究会は、新学習指導要領において、育成すべき資質・能力が従来の4観点から3観点到整理されたことにより、評価についても研究を進めた。テストにおいても、より現実的なコミュニケーションを再現したコミュニカティブ・テストが求められている。そこで、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3つの領域に分担し、「知識・技能」と「思考・判断・表現」をそれぞれどのように指導し、評価するかを「学習指導要領」と「CAN-DO」を参照して、指導と評価に一貫性がもてるテストづくりを検討した。

③定期考査問題試案

「聞くこと」の領域は1学年担当者、「読むこと」の領域は2学年担当者、「書くこと」の領域は3学年担当者が、それぞれの研究を通して作成された問題試案をいくつか紹介していただいた。

A「聞くこと」(1年)

- ・公共の施設でのガイドの説明を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。
- ・話し手が語る情報を整理し、相手の意向に即した対応ができる。

B「読むこと」(2年)

- ・訪問することになった世界の名所について、簡単な英語で書かれた文章を読み、必要な情報をとらえることができる。
- ・世界の名所についての簡単な語句や文で書かれた紹介文を読み、自分のクラスの様子を踏まえた上で、どのような行動をとったらいのかを読み取ることができる。

C「書くこと」(3年)

- ・環境問題について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
- ・環境問題に関するウェブサイトを読んで、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

④助言と講評

玉川大学教授である工藤洋路氏は、ペーパーテストの問題作成において、実際に英語を使用してコミュニケーションを行う場面や状況を想定して、問題の改善を図る必要があるとしている。問題作成前には、評価の観点を見据えてテスト・スペックを作成し、この設問で測ろうとする能力や知識等を決定してリスト化することも重要であると示している。また、新しい評価の観点である「知識・技能」と「思考・判断・表現」に境界線を引いて問題作成をすることは難しいということ、今後は「思考・判断・表現」に適う問題作成に力を入れていくことが大切であるということなど、今後のテスト問題作成に必要なポイントについて指導・助言をいただいた。

4 感想

公開授業では、教師の質問に対して生徒が自ら挙手して英語で自分の考えを発表していた。意欲的に英語を使おうとする生徒の姿に、これまでの授業での積み重ねを感じた。また、ペア活動やグループ活動ではほとんどの生徒が意欲的に話し合いをしている様子が見られ、生徒間の仲の良さや先生と生徒との関係の良好さが窺えた。学習指導のあり方だけでなく、学級経営の大切さについても改めて考えさせられる授業参観だった。